

EUSI メールマガジン Vol. 100 「コスモポリタニズムと友好の権利」(山内進)

EUSI (EU Studies Institute in Tokyo)は、一橋大学・慶應義塾大学・津田塾大学の3校のコンソーシアムによるEUに関する教育・研究・広報を行う拠点です(詳しくは以下をご覧ください)
http://eusi.jp/content_jp/aboutus/about_eusi/

【EUSI Commentary Vol. 082】

「コスモポリタニズムと友好の権利」

山内進 (一橋大学名誉教授、EUSI 初代理事長)

コスモポリタニズムという言葉がある。一般的に言えば、世界＝地球をひとつの共同体とみなし、その成員をすべて同胞とする考えかたである。みなが同胞だから、人はみな自由で平等な世界市民であり、どこにいても、またどこにいても同じ市民として扱われるし、扱われねばならない、ということになる。EUは何をめざすのか、というときに一つの考え方として示される有力な思想とあってよいであろう。

コスモポリタニズムはヘレニズム期に生まれたといわれる。アレクサンドロス大王がペルシアを征服し、インドまでその足跡を伸ばした時に、大王がその支配下に置かれることになった諸民族を同じ同胞として扱うという方針をたて、実行しようとしたからである。大王は、マケドニアの戦士たちと対立しながらもその理念を貫こうとしたという。

武力によって各地を征服していたアレクサンドロス大王がほんとうにコスモポリタンだったかどうかはわからない。しかし、ギリシア人以外はバルバロス(野蛮人)だというのが通常の考え方だった時代に、被征服者をもほんとうに同胞とみなしたとすれば、大王は大変な革命的思想家だったとあってよいだろう。

この言葉の創始者はキュニコス派のディオゲネスだといわれている。出身地を聞かれて「私はコスモポリタンだ *kosmopolites*」と答えたのがその最初ということになっている。

アレクサンドロスはペルシアに向かう前にコリントスでこのディオゲネスと会っている。残念ながら、コスモポリタニズムをめぐる議論が交わされたという話は伝えられていない。大王は自ら出かけて、日向ぼっこをしていた彼に、何か希望はないかと聞いた。「ちょっとその日の当たるところをよけてください」というのがその返事だった。「わたしがもしアレクサンドロスでなかったならば、ディオゲネスになりたい」と帰途アレクサンドロスが語ったとプルタルコス(河野與市訳『プルターク英雄伝 (九)』岩波文庫)は伝えている。

...

(続きはこちら↓)

<http://www.hit-u.ac.jp/kenkyu/eusi/eusicommentary/vol82.pdf>

【EUSI イベントご案内】

1. ジャン・モネ EU 研究センター(慶應義塾大学)「第 85 回慶應 EU 研究会」

日時: 2016年9月24日(土) 13:00-17:00

場所: 慶應義塾大学三田キャンパス 南館 4 階会議室

大木正俊 (姫路獨協大学法学部准教授)

「近年のイタリア労働市場改革 正規・非正規の二重市場の観点から」(仮)

新津和典 (岡山商科大学法学部准教授)

「EU 域内における会社の移動性 その現状と展望」

刀祢館久雄 (日本経済新聞論説委員兼編集委員)

「英国の離脱と EU の将来」(仮)

主催: ジャン・モネ EU 研究センター(慶應義塾大学)

参加: 無料・事前登録不要 (どなたでも参加できます)

<http://www.jean-monnet-coe.keio.ac.jp/>

2. 一橋地中海研究会「低迷するギリシアの現状」

EUSI は、一橋地中海研究会主催の以下の研究報告会を後援します

出席をご希望の方は、以下の連絡先まで E メールで予約して下さい

日時: 2016年10月2日(日) 15:00～

場所: 一橋大学国立東キャンパスマーキュリータワー5F 3503 号室(EUSI 会議室)

報告: 「低迷するギリシアの現状」

村田奈々子 (東洋大学文学部史学科准教授)

参加: 出席をご希望の方は以下の連絡先まで E メールで御連絡ください

連絡先: 大月康弘 (一橋地中海研究会代表・EUSI 執行委員)

(otsuki.yasu@r.hit-u.ac.jp)

<http://www2.econ.hit-u.ac.jp/~areastd/mediterranean/index.html>

3. 公益財団法人大学セミナーハウスより下記セミナーのご案内が届いています

第 5 回 EU セミナー「EU の新たな試練 英国の EU 離脱後のヨーロッパ」

日時: 2016年9月23日(金)-25日(日) (2泊3日)

会場: 大学セミナーハウス (東京都八王子市下袖木 1987-1)

特別講演「EU の今後」(仮題)

駐日欧州連合代表部 公使/副代表 (予定)

第 1 分科会「EU 経済と連帯」

田中素香 (中央大学経済研究所客員研究員)

太田瑞希子 (亜細亜大学国際関係学部講師)

第 2 分科会「EU の域内格差と地域政策」

蓮見雄 (立正大学経済学部教授)

第 3 分科会「EU の移民・難民 シェンゲン圏と法」

中西優美子 (一橋大学大学院法学研究科教授、EUSI 所長)

第4分科会「EU市民社会の連帯とリスク」

福田耕治 (早稲田大学政治経済学術院教授、日本EU学会理事長)
押村高 (青山学院大学国際政治経済学部教授)

第5分科会「テロと排外主義」

渡邊啓貴 (東京外国語大学国際関係所長・教授、EUセミナー企画委員長)
小久保康之 (東洋英和女学院大学国際社会学部教授)

主催: 公益財団法人 大学セミナーハウス、後援: 駐日EU代表部
募集対象・人員: 大学生・大学院生・社会人 (先着順・合計80名まで)
参加希望: 以下HP上の申込フォームにてお申込み下さい (締切・9月15日)
<https://iush.jp/seminar/2016/07/141/>

【EUSI所属研究者による記事・執筆情報紹介】

中西優美子 (一橋大学大学院法学研究科教授、EUSI所長)
「EUから第三国への個人データ移転と欧州委員会のセーフ・ハーバー決定」
【EU法における先決裁定手続に関する研究(18)】
『自治研究』第92巻第9号(2016年9月)96-108頁

【EUに関する新刊紹介】

板橋拓己『黒いヨーロッパ ドイツにおけるキリスト教保守派の「西洋(アーベントラント)」主義、1925～1965年』(吉田書店、2016年9月1日刊行)
<http://www.yoshidapublishing.com/booksdetail/pg676.html>

本書の著者である板橋拓己先生より、本書のご紹介を頂きました。

ドイツ語に Abendland(アーベントラント)という言葉がある。
「晩」「夕方」を意味する Abend と、「土地」を意味する Land が組み合わされた語であり、「陽の沈む地」を意味する。英語だと Occident(オクシデント)に対応するものであり、語源的には「ヨーロッパ」とも重なっている。通例、「西洋」と訳されてきた。

本書は、この「アーベントラント」という概念の政治的な意味や機能を探ったものである。これは、ヨーロッパ統合(史)研究にとって重要な意味を持つ。というのも、第一次世界大戦後から20世紀中葉あたりまでのヨーロッパ統合の歴史を調べていると、ヨーロッパを統合することは「アーベントラントの救済」である、というフレーズに頻繁に出くわすからだ。

この場合の「アーベントラント」には、強いイデオロギー的な含意がある。「アーベントラントの救済」というとき、「アーベントラント」は、単なる地理的表象ではなく、共通の文化的な紐帯に基づいたヨーロッパ諸国民・諸民族の連帯を説くスローガンとして機能する。さらにこの「アーベントラント」概念は、反近代的で、著しく保守的・宗教的な色彩を帯びている。「アーベントラント」に含意されているのは、主権国家やナショナリズム登場以前の全一なるキリスト教的共同体としてのヨーロッパへの郷愁なのである。

こうした「アーベントラント」概念が、とりわけドイツ語圏において、両大戦

間期には独仏協調のシンボルとして、また冷戦期には反共産主義・反東側のプロパガンダ概念として機能することになる。

そして注目すべきは、戦間期から冷戦期に至るまで、「アーベントラント」をシンボルとして、月刊誌『アーベントラント』や『ノイエス・アーベントラント』といったメディア、さらには「アーベントラント・アクション」および「アーベントラント・アカデミー」といった運動体が組織されてきたことである。

...

(続きはこちら↓)

<http://eusi.jp/outreach/outreach-report/abendland/>

板橋拓己 (成蹊大学法学部教授)

【EUに関するニュース】

- 2016年8月16日 Eurostat、6月貿易収支はユーロ圏19カ国292億ユーロ、EU28カ国77億ユーロで共に黒字
- 2016年8月17日 英調査会社TNS、英国国民の33%が1年前と比べて景気悪化と回答。4月調査と比べ11%増
- 2016年8月18日 ECB、7月理事会議事要旨発表。英EU離脱への追加策急がず、市場の期待の抑制など協議
- 2016年8月18日 モグリーニ上級代表、シリア北部アレッポ情勢悪化懸念、戦闘停止や支援再開求む声明
- 2016年8月18日 財務省貿易統計、7月対EU貿易(速報値)は輸出6655億円・輸入6667億円で共に前月比減
- 2016年8月19日 モグリーニ上級代表ら、世界人道デーに寄せて人道活動家を讃えEUの支援取組謳う声明
- 2016年8月19日 WTO紛争処理小委員会、ロシアのEU産豚肉製品禁輸は不当と判断、EU側の主張認める
- 2016年8月19日 英首相報道官、メイ英首相は年内にEU離脱手続を正式に開始することはないと言明
- 2016年8月21日 ソマリア沖海賊対策任務の南厚第4護衛隊群司令、EU海軍部隊旗艦訪問、作戦協力協議
- 2016年8月22日 独仏伊首脳、伊中部ベントテーネ島沖で会談。安保協力や雇用など英離脱後の結束確認
- 2016年8月22日 欧州委員会、第二次大戦ナチズム・スターリン主義犠牲者追悼記念日に先駆け声明発表
- 2016年8月23日 地中海EU海軍部隊ソフィア作戦、リビア沿岸警備隊・海軍の訓練のための覚書締結
- 2016年8月23日 欧州委員会、再生可能エネ目標に向け、チェコの水力発電とバイオガス計画支援を承認
- 2016年8月23日 サルコジ前仏大統領、来年の仏大統領選挙に最大野党・共和党候補として出馬表明
- 2016年8月23-25日 欧州議会外交問題委員会、クーデター鎮圧後のトルコ政治・人権状況の視察団派遣
- 2016年8月24日 伊中部でM6.2地震、約300名死亡。スロベニアEU委員、哀悼と支援用意の声明
- 2016年8月24日 EU報道官、北朝鮮のSLBM発射は安保理決議違反、ミサイル計画放棄と対話解決求む声明
- 2016年8月24日 欧州委員会、中小企業融資やインフラ開発に向けマルタ開発銀行(MDB)創設の支援承認
- 2016年8月24日 欧州委員会、労働力や収入など7つの社会調査で新統計方式採用。即時・一貫性等改善
- 2016年8月24日 ウクライナ独立25周年。EU報道官、独立後の同国の発展を評価、領土一体性を支持
- 2016年8月24日 アフガンの米国系大学でテロ、13名殺害。翌日モグリーニ代表、同国大統領へ哀悼の意
- 2016年8月24-26日 メルケル独首相、エストニア・チェコ・ポーランド訪問、EU統合の方向性など協議
- 2016年8月25日 トゥスク常任議長、伊中部地震を受けレンティイ首相に哀悼ならびに支援用意の書簡
- 2016年8月25日 モグリーニ上級代表、コロンビア政府とコロンビア革命軍(FARC-EP)の和平合意を評価
- 2016年8月25日 欧州NPOのStatewatch、EU著作権法制改正案を公開。Google税やコンテンツIDなど含む
- 2016年8月25日 オランダ仏大統領、パリで欧州の社会民主系政党の首脳らとEUの安保や成長など協議
- 2016年8月26-27日 メルケル独首相、ベルリンで北欧諸国やバルカン諸国等8カ国首脳とEU統合など協議
- 2016年8月29日 ベルギーの研究機関BRUEGEL、英離脱後の英・EU間「大陸パートナーシップ」構想提言
- 2016年8月30日 トゥスク議長とユンカー委員長、G20首脳会議に向け難民や雇用等を提起する共同書簡
- 2016年8月30日 欧州委員会、アイルランドがアップル社へ130億ユーロの不当な税優遇断定、回収指示

2016年8月30日 欧州委員会、2018年を「欧州文化遺産年」に指定する法案を欧州議会及び理事会に提出
2016年8月30日 欧州議会外交問題委員会、トルコ情勢協議。クーデター鎮圧後の同国人権状況悪化懸念
2016年8月30日 EU理事会、リビアでのEU国境支援ミッション(EUBAM Libya)新司令官を任命
2016年8月30日 モグリーニ上級代表、ミャンマーの21世紀ピンロン連邦和平会議を歓迎、和平進展求む
2016年8月31日 モグリーニ上級代表、マケドニアで12月11日総選挙決定を歓迎、他の改革案の履行注視
2016年8月31日 Eurostat、7月失業率(季節調整済)はユーロ圏19カ国10.1%、EU28カ国8.6%で前月比同
2016年8月31日 メイ英首相、閣議でEU離脱の方針再確認、離脱通告には英議会の同意必要なしと強調

【編集後記】

EUSI メールマガジンは今回で第100号を迎えることになりました。

この間、様々なプロジェクトの実施、また原稿の執筆や編集に携わってきたEUSI関係者の努力もありましたが、突然の依頼にも関わらず、メルマガのエッセーの執筆等をご快諾いただいた多くの研究者・実務家の方々に、この場をお借りして改めて感謝申し上げます。そして何よりも、このメルマガを継続してお読みいただいた読者の皆様に心より御礼申し上げます。

今回はこの第100号を記念して、EUSIの生みの親とも言うべき山内進一橋大学前学長にご寄稿いただきました。

8月22日～9月2日までEUSIの第8回サマースクールが実施されました。これは日本、韓国、ベルギーの大学生が東京とルーヴァン(ベルギー)で一緒に勉学を行うという試みです。こうした若い世代から次のメルマガ執筆者が育ってくることを願ってやみません。

(藤川哲史・EUSI メールマガジン編集担当)

あれは確か2011年秋頃のことでした――

「EUSIでもメールマガジンを刊行したいと考えています。ついてはアイデアを出していただけませんか」と言われたら、皆さんなら何と答えますか？

当時の私の率直な感想としては「弱ったなあ。EU研究事業のメールマガジンなんていったい誰が読むだろう？間違いなくネタがすぐに枯渇するだろうし、長続きするとは思えない」という、およそ後ろ向きなものでした。

そんなわけで最初はあまり真剣に考えずにいたのですが、2012年2月頃「新年度より刊行しようと思いますので、そろそろ企画案を出してください」と言われ、これはいよいよ逃げられまいと悟り、色々な研究機関が出しているメールマガジンを参考にしながら、「巻頭エッセイ」「イベント案内」「EUに関するニュース」「編集後記」という形のEUSIメールマガジン企画案を提出し、この企画は正式に動き出しました。

2012年4月創刊第1号を配信した時の購読者は107名でした。当初は月1回配信の予定でしたが、創刊号を評価して下さった先生方より「月2回にしてはどうか」とのお話を頂き、以後月2回・年23回のペースで配信を重ねて参りました。やってみると案外続くもので、当初危惧したネタが枯渇することなど全くなく、むしろ次から次に話題がどんどん提供され、それにつれて読者も次第に増えてゆくようになりました。また巻頭エッセイも、当初はEUSI傘下の一橋・慶應・津田塾の先生方による執筆が主でしたが、次第に他大学の研究者やジャーナリストや官庁の方々などにも書いて頂くようになり、良い意味でEUSIの枠組に捉われることなく拡大してゆきました。EUSIメールマガジンの購読者は、Vol.25(2013年7月)で173名、Vol.50(2014年7月)で324名、Vol.75(2015年8月)で767名に増え、今号Vol.100(2016年9月)では967名に達しています。

ここまで続いたのは、何よりも読みものとして面白くなければならず、その意味で、巻頭エッセイなどで力のある論考を寄稿して下さった多くの先生方や、

EUSI の活動や EU に関心を持って下さる数多くの読者の皆様のおかげと、心より御礼申し上げます。

創刊した当時は、まさか 100 号まで続くことなど予想もしていなかったというのが正直な感想ですが、何事もコツコツと継続してゆくというのは大事なことだとあらためて感じています。

(林 大輔・EUSI メールマガジン編集担当)

EUSI (EU Studies Institute) in Tokyo

〒186-8601 東京都国立市中 2-1

一橋大学 マーキュリータワー#3504 EUSI 事務局

TEL: 042-580-9117 / E-mail: info@eusi.jp

ご意見、ご感想、配信登録・配信停止、その他メールマガジンについての
問い合わせにつきましてはこちら

E-mail: info@eusi.jp
